

## 災害流木再生プロジェクト×子どもと遊び

### 飛べ！グライダー！

#### ■災害流木再生プロジェクトとは？

<http://www.design.kyushu-u.ac.jp/~tomotari/driftwood.pdf>

九大芸術工学研究院で立ち上がった九州北部豪雨被害への復興支援プロジェクト。大量発生した災害流木への負のイメージを、創造の力で「記憶を留める何か」として活かしたいとの願いを込め、建築、デザイン、アートによる多様なアプローチによって流木を再活用するプロジェクト。朝倉市杷木在住の杉岡製材所代表・杉岡世邦氏の協力により朝倉県土整備事務所許可をうけた流木を再活用する予定。

そのプロジェクトの一つとして、尾方義人准教授が開発した木製グライダー（流木を薄くスライスして作成）がある。

今回の企画は、この尾方准教授のアイデアをお借りし、朝倉の子どもたちの身体性と精神性の回復につながる「遊びの場」を提供するというもの。



#### ■ねらいと願い

この企画は、被災地の子どもたちが、今回の豪雨水害をどのように捉え、解釈し、未来の糧としていくのかというプロセスに寄り添うものである。そのプロセスは決して一様ではなく、百人百様の多様な物語が存在するだろう。その多様さを画一化することなくそのままとして受け止めながら、多様さを支える根幹に、自尊心と大いなる自然への信頼、そして故郷への誇りとがやわらかく息を吐いてほしいと心から願う。

簡単に言語化できない複雑な感情にそっと手を当てる。ただただそのままを受け止める。それでいいのだと受容する。「芸術」や「遊び」を通して、そんなやわらかな素地を子どもたちの中に育んでいきたい。

そのため第1ステップとして、災害流木を活用し作成したグライダーを使った遊びの場を提供する。グライダーが飛ぶために必要な「揚力」は「抵抗力」によって生み出される。もちろん、その原理について、小難しい話をあえて伝える必要はないのだが、抵抗力を味方にして飛ぶグライダーの姿は、災害というある種の「抵抗力」でさえも推進力へと変えていける可能性がそこにあるというメッセージであり、あらゆることを将来の糧として生きてほしいという子どもたちへのエールとなることを願ってやまない。

#### ■期待される効果

- ・子どもたちが遊びを通して身体を動かすことで、未消化だった感情を発散することができる。  
また、停滞していた身体エネルギーの「流れ」が整う。
- ・「飛んだ！」瞬間の喜びや風となってかけていく爽快さを味わうことで、自然との一体感を取り戻す。
- ・流木を活用したグライダーに触れ、そこから楽しさが生み出されるという体験を通して、流木へのイメージに変化が生まれる。
- ・子どもが喜ぶ様子を大人が見ること、笑い声が響くことで、地域コミュニティがエンパワーされる。